

## ウエイトハンディ・燃料リストラクタ何のその7位入賞でシリーズ2位をキープ!!



7月18日に開幕してから約1ヶ月、新型コロナウイルス感染症のためにスタートが遅れた影響で、すでに3戦目を迎えることになった2020年のSUPER GTレース、2戦連続で行われた富士スピードウェイから、舞台を三重県にある鈴鹿サーキットへ移して開催された。

梅雨明けと同時に猛暑が続く中、雨の予報も出ていたがまったくその気配もなく快晴の下予選が行われた。気温34℃、路面温度48℃と厳しいコンディションの中スタートした予選Q1は、ニック・キャッシュー選手が担当。

午前中に行われたフリー走行で、通常行う予定の決勝レースを想定したテストが、持ち込みのセットのコンディションに合わずにセットアップに多くの時間を費やしてしまい、決勝に向けて若干の不安要素が残ってしまったが、チームとドライバーの協力のもと、マシンは見違えるほどいいコンディションへと変わった。

走り出しからパイブレーションが強くまともにステアリングも握れないとのインフォメーションがあったがこのままいくしかない状況。パイブレーションと闘いながら予選を続けたが、ウエイトハンディと燃料リストラクタもあり、予選Q2への進出はかなわなかった。

猛暑の中迎えた決勝レース、スタートドライバーはキャッシュー選手。1周のフォーメーションラップののちスタート。スタート直後に抜群の速さを見せるキャッシュー選手であるが、前方のマシンの加速が伸びずに詰まってしまう、いつものスタートダッシュを見せることができなかった。GT300クラスのスタート直後にクラッシュが発生し、1回目のセーフティーカー(SC)が導入。5周目にレース再開。スタートもうまく決め、前方のマシンに近づくことはできるが、ウエイトハンディが重くのしかかり、オーバーテイクまでは至らず、ドライバーとしてはストレスのたまる展開が続く。しかしながら、キャッシュー選手は集中力を切らさず重たいマシンをコントロールしていく。

前方のマシンがトラブルで後退し、9位までポジションを上げた27周目にピットイン、エースの平川亮選手に交代しレース再開。タイヤ交換時に若干のミスがあり順位を落としてしまうが、すぐにコース上で抜き返し順位を9位に戻す。29周目にはGT300クラスのコースアウトによりこのレース3回目のSC導入。34周目にレース再開、波乱のレースの中、重くパワーも抑えられているマシンを見事なテクニックでコントロール。じわじわと順位を上げ、残り周回数4周の時点で8番手、最終ラップには7位に順位を上げてチェッカーフラッグ、辛いレースを耐えてチャンピオンシップにとっては非常に重要な4ポイントを獲得、シリーズランキング2位をキープ!

### 《今後のスケジュール》

	日程	会場
第4戦	9/12(土)・13(日)	ツインリンクもてぎ(栃木県)
第5戦	10/3(土)・4(日)	富士スピードウェイ(静岡県)
第6戦	10/24(土)・25(日)	鈴鹿サーキット(三重県)
第7戦	11/7(土)・8(日)	ツインリンクもてぎ(栃木県)
第8戦	11/28(土)・29(日)	富士スピードウェイ(静岡県)

